

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23650397

研究課題名(和文) 諸外国との比較による日本のエリートスポーツ政策の評価に関する研究

研究課題名(英文) Evaluation of the Japanese elite sport system: An international comparison

研究代表者

間野 義之 (Mano, Yoshiyuki)

早稲田大学・スポーツ科学学術院・教授

研究者番号：90350438

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本におけるエリートアスリートの環境の整備、および国際競技力向上を図るため、国際研究者コンソーシアム「SPLISS」に参画し、エリートスポーツ政策とトップアスリートの環境に関する定量的な国際比較研究を行い、日本のエリートスポーツ政策の主要成功要因や課題を明らかにすることを目的とした。日本のエリートスポーツシステムは他国に比べ「トレーニング施設」「国内・国際競技大会」「医科学研究」が優れている一方で、「スポーツ参加」「タレント発掘・養成」には一定の課題があることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to examine policy-related success drivers and major weakness of the current elite sport system in Japan in order to improve elite athletes' climate and international sporting success. We achieved this purpose by participating in 'SPLISS' which is an international network of research cooperation that coordinates, develops and shares expertise in innovative, high-performance sport policy research in cooperation with policy makers, National Olympic Committees (NOCs), international (sport) organisations, and researchers worldwide. Compared with other nations, the Japanese elite sport system showed the advantage in 'training facility', '(inter)national competition', and 'scientific research', however research has revealed that there are certain weakness in 'sport participation' and 'talent identification and development'.

研究分野：スポーツ科学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 スポーツ科学

キーワード：エリートスポーツ政策 エリートスポーツシステム エリートアスリート エリートスポーツ環境

1. 研究開始当初の背景

これまでの日本の国際競技大会における活躍は、競技者や指導者としての個人、あるいは一競技団体の努力と創意工夫により支えられてきた(スポーツ振興に関する懇談会, 2007)が、2007年のナショナルトレーニングセンター設立や、2011年に施行されたスポーツ基本法において、競技スポーツの振興が国の責務となるなど、国家が主体的にエリートスポーツに取り組み出し、エリートスポーツシステムを制度化してきていることが明らかである。2010年の文部科学省のスポーツ関係予算227億のうち7割が競技力向上に充当されている。

エリートスポーツシステムとは、国際競技力を向上させるためにアスリートを体系的で戦略的に発掘、育成、強化するインフラや計画の実践を表す(Houlihan and Green, 2008; Böhlke and Robinson, 2009)。近年、イデオロギー普及という政治的背景の中発展した、旧ソ連や旧東ドイツのエリートスポーツシステムのフレームワークを、多くの国々が追随している(Green and Houlihan, 2005; Bergsgard et al., 2007; Hill, 2007)。

過去10年で、このエリートスポーツシステムに関する研究が様々な分野において推進されており、De Bosscher et al. (2006)が分類した国際競技力に関するマクロ(経済)・メゾ(政策)・ミクロ(自然科学)の3領域いずれにおいても確認することができる。中でも注目しているのは、メゾレベル研究として、国際競技力を規定する政策要因を9つの柱に分類した概念モデル(SPLISSモデル: Sports Policy Factors Leading to International Sporting Success)が構築され(図1)、推進されているエリートスポーツシステムの国際比較に関する共同研究、所謂SPLISS研究である(De Bosscher et al., 2008; 2009; 2010)。SPLISS研究は、各Pillarの主要成功要因(CSF)である質的データと量的データをスコアリングシステムに変換するという方法論(ミックスリサーチメソッド)を採用することによって、記述的な分析と差別化をしている。

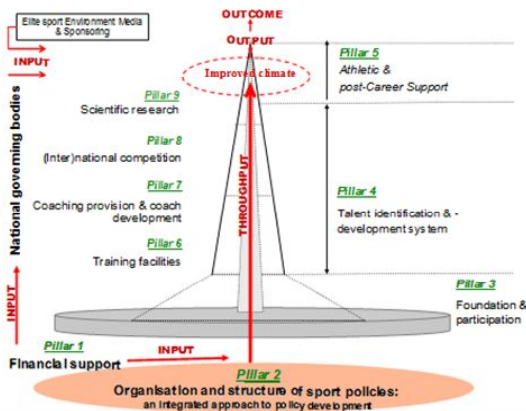


図1 SPLISSモデル

日本においてエリートスポーツに関する政策的研究は、記述的分析(Yamamoto, 2008; 和久ら, 2008; 久木留, 2010)に限られており、今後の国際競技力向上施策改善の資料となるエビデンスとして、SPLISSの枠組みを用いた研究は意義を有していると考えられる。

2. 研究の目的

日本におけるエリートアスリートの環境の整備、および国際競技力向上を図るため、SPLISS研究に参画し、日本のエリートスポーツ政策の主要成功要因や課題を明らかにすることを目的とした。具体的には以下のリサーチクエスションに応えることで、研究目的に対応した。

RQ1: エリートアスリートはエリートスポーツ環境をどのように評価しているのか?

RQ2: エリートアスリートの中でも競技力によって、エリートスポーツ環境の評価に差異があるのか?

RQ3: エリートコーチはエリートスポーツ環境をどのように評価しているのか?

RQ4: 他国と比較し、日本のエリートスポーツシステムの主要成功要因や課題は何か?

各種用語の定義は以下の通りとした。

エリートスポーツ環境: アスリートをエリートアスリートへと成長させ、専門スポーツにおいて最高水準の活躍を達成し続けることを可能とする社会・組織環境(van Bot tenburg, 2000)

エリートアスリート: (1)2011年度チーム「ニッポン」マルチサポート事業の夏季ターゲット競技の選手であり、(2)北京オリンピック以降の国際競技大会(オリンピック, 世界選手権, 世界ランク, ワールドカップなど)においてベスト16以上の競技成績を残している選手であり、(3)調査時に現役であるアスリートである。

エリートコーチ: エリートアスリートのコーチ

3. 研究の方法

エリートスポーツ環境に対するエリートアスリートやエリートコーチの主観的評価を探るため(RQ1, RQ3)、各国のエリートスポーツシステムの国際比較研究を進めているSPLISSプロジェクトによって共同作成された質問紙を用いた。エリートスポーツ環境は、各国のエリートスポーツ政策に関する専門家によって抽出されたエリートスポーツ

システムの9つの柱における126のCSF(重要業績評価指標)より、エリートスポーツ環境をエリートアスリートが主観的に評価できる7つのPillarにおける21CSF,およびエリートスポーツ環境の総合評価を用いた。具体的には、「スポーツ政策の組織体制と構成」(Pillar 2: 5CSF, 11項目),「タレント発掘・育成システム」(Pillar 4: 4CSF, 9項目),「競技およびポストキャリアサポート」(Pillar 5: 5CSF, 10項目),「トレーニング施設」(Pillar 6: 1CSF, 2項目),「コーチの確保・養成」(Pillar 7: 1CSF, 11項目),「国際・国内競技大会」(Pillar 8: 4CSF, 7項目),「医・科学研究」(Pillar 9: 1CSF, 6項目)であり,それらを測定可能な56の質問項目に変換し,その主観的評価を5件法または二項選択にて対象者に求めた。

解析は,スコアリングシステム(De Bosscher et al., 2009; 2010)を用いて各Pillarの評価得点を算出した。次に,競技成績別のサブ分析(RQ2)においては,解析対象者を国際競技大会においてベスト8以上の成績を残した経験があるエリートアスリート(Elite_α),経験のないエリートアスリート(Elite_β)に分類し,スコアリングシステムにより,Elite_αとElite_βにおける各Pillarのスコアを算出した。

他国との比較(RQ4)においては,SPLISSプロジェクトによって共同作成された約200ページにわたる「スポーツ政策インベントリ」に対して,専門家インタビュー,資料収集,およびデータの二次解析等を用いて回答し,それらの量的・質的データがスコアリングシステムによって分析された。なお,SPLISSに参画している国は,オーストラリア,ベルギー(フランダース,ワロン),ブラジル,カナダ,デンマーク,エストニア,フランス,フィンランド,日本,オランダ,北アイルランド,ポルトガル,シンガポール,スペイン,スイス,韓国である。

4. 研究成果

エリートアスリートによるエリートスポーツ環境をスコアリングメソッドにより分析した結果,「タレント発掘・育成」「競技サポート」「トレーニング施設」「コーチの供給・養成」に関する環境を高く評価していることがわかった。他方,「ポストキャリアサポート」の環境整備が十分でないことも明らかとなった(表1)。

それらのエリートアスリートを,主要な国際競技大会においてベスト8以上の成績を残した経験があるもの(Elite_α)と,それ以外のもの(Elite_β)に大別し,同様の分析をした。その結果,Elite_αはElite_βよりも,「スポーツ政策の組織体制・構成(競技団体とのコミュニケーション等)」「タレント発掘・育成システム」「国内・国際競技大会」において優れたエリートスポーツ環境下に

いることがわかった。これの柱は,日本のエリートスポーツシステムの成功要因である可能性が高い(表2)。

表1 エリートアスリートによるエリートスポーツ環境評価

Pillar	Total Score (%) (n=105)	Evaluation	
1. Financial support	-	-	
2. Organisation and structure of sport policies	65.5	C	
3. Sport participation	-	-	
4. Talent identification and development system	87.5	A	
5(a). Athletic support	95.0	A	
5(b). Post-career support	33.3	E	
6. Training facilities	100.0	A	
7. Coaching provision and coach development	87.5	A	
8. (Inter)national competition	74.3	B	
9. Scientific research	66.7	C	
Criteria for evaluation	Climate is very well maintained Good level of maintenance Moderate level of maintenance Limited maintenance Little or no maintenance	84.1-100% 68.1-84.0% 52.1-68.0% 36.1-52.0% 20.0-36.0%	A B C D E

*Pillar 1 and 3 are unquestioned item in the elite sport climate survey

表2 競技力によるエリートスポーツ環境の差異

Pillar	Score (%) Elite _α (n=54)	Evaluation	Score (%) Elite _β (n=51)	Evaluation
1. Financial support	-	-	-	-
2. Organisation and structure of sport policies	70.9	B	60.0	C
3. Sport participation	-	-	-	-
4. Talent identification and development system	90.0	A	80.0	B
5(a). Athletic support	95.0	A	90.0	A
5(b). Post-career support	33.3	E	33.3	E
6. Training facilities	100.0	A	100.0	A
7. Coaching provision and coach development	87.5	A	87.5	A
8. (Inter)national competition	77.1	B	60.0	C
9. Scientific research	66.7	C	60.0	C
Criteria for evaluation	Climate is very well maintained Good level of maintenance Moderate level of maintenance Limited maintenance Little or no maintenance	84.1-100% 68.1-84.0% 52.1-68.0% 36.1-52.0% 20.0-36.0%	A B C D E	

*Pillar 1 and 3 are unquestioned item in the elite sport climate survey

エリートコーチによるエリートスポーツ環境調査をスコアリングメソッドを用いて分析した結果,「トレーニング施設」環境がよく整備されていることがわかった。一方で,(アスリートの調査結果同様)ポストキャリアサポートには課題があることが明らかになった(表3)。

表3 エリートコーチによるエリートスポーツ環境評価

Pillar	Total Score (%) (n=62)	Evaluation	
1. Financial support	-	-	
2. Organisation and structure of sport policies	70.9	B	
3. Sport participation	-	-	
4. Talent identification and development system	72.0	B	
5(a). Athletic support	72.7	B	
5(b). Post-career support	20.0	E	
6. Training facilities	90.0	A	
7. Coaching provision and coach development	50.0	D	
8. (Inter)national competition	77.1	B	
9. Scientific research	42.5	D	
Criteria for evaluation	Climate is very well maintained Good level of maintenance Moderate level of maintenance Limited maintenance Little or no maintenance	84.1-100% 68.1-84.0% 52.1-68.0% 36.1-52.0% 20.0-36.0%	A B C D E

*Pillar 1 and 3 are unquestioned item in the elite sport climate survey

調査に参加した他国のエリートスポーツシステムと比較して,日本は「トレーニング施設」「国内・国際競技大会」「医・科学研究」において優れていることが明らかとなった。他方,「スポーツ参加」や「タレント発掘・育成システム」には一定の課題があることがわかり,今後国際競技大会における競争優位を得るために重要な「柱」である可能性

が示唆された(図2)。

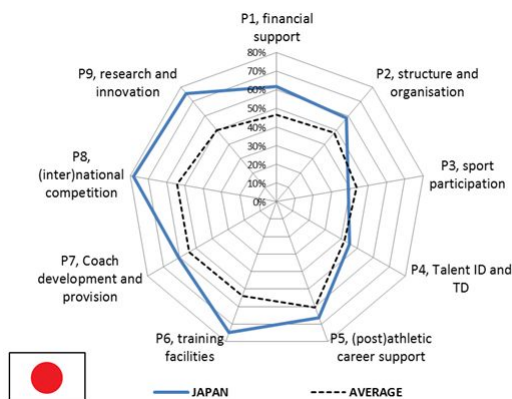


図2 日本のエリートスポーツシステムの評価

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

舟橋弘晃, 閻野義之, 国際競技力に関する研究の動向 マクロレベルのオリンピック研究に着目して, Japanese Journal of Elite Sport Support, 査読有, 5巻, 2012, 33-49

Funahashi, H., Nagamatsu, J., Shirai, K., Yamashita, S., Nakamura, H., Yamada, E., Waku, T., De Bosscher, V., Mano, Y., Success Drivers in the Japanese Elite Sport System: An Examination of the Elite Sport Climate by Elite Athlete, Asian Sport Management Review, 査読有, vol. 7, 2014, 61-98

〔学会発表〕(計1件)

舟橋弘晃, 閻野義之, 日本のエリートアスリートによるエリートスポーツ環境の評価 SPLISSモデルを用いた定量的評価, 日本体育・スポーツ政策学会 第21回大会, 2011

舟橋弘晃, 永松旬, 白井克佳, 山下修平, 中村宏美, 山田悦子, 和久貴洋, 閻野義之, 日本のエリートスポーツシステムの成功要因 エリートコーチの主観的評価による検討, 日本スポーツ産業学会 第21回大会, 2012

Funahashi, H., Nagamatsu, J., Shirai, K., Yamashita, S., Nakamura, H., Yamada, E., Waku, T., Mano, Y., Key Success Driver of Japanese Elite Sport System: Elite Athletes' and Elite Coaches' Perspective, The 7th International Sport Sciences Symposium, 2012

Funahashi, H., Nagamatsu, J., Shirai, K., Yamashita, S., Nakamura, H., Yamada, E., Waku, T., Mano, Y., Key

Success Driver of Japanese Elite Sport System: Elite Athletes' and Elite Coaches' Perspective (poster presentation), The 7th International Sport Sciences Symposium, 2012

Funahashi, H., Nagamatsu, J., Shirai, K., Yamashita, S., Nakamura, H., Yamada, E., Waku, T., Mano, Y., Success Driver in the Japanese Elite Sport System: An Examination Based on Evaluations of the Elite Sport Climate by Elite Athletes, The 20th European Association for Sport Management Conference, 2012

舟橋弘晃, 閻野義之, SPLISS 政策研究, 平成24年度地域・体育系大学ネットワーク全国会議(招待講演), 2013

Mano, Y., Funahashi, H., New Perspective on Elite Sport Policy in Japan, SPLISS conference(招待講演), 2013

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

閻野 義之 (MANO, Yoshiyuki)
早稲田大学・スポーツ科学学術院・教授
研究者番号: 90350438

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号：